

## 生分解性マルチの効果確認試験

JA新はこだて

工藤 貢



①突き破る直前の芽



②突き破った芽



③一部焼けてしまった芽



④手前慣行区、奥試験区



⑤7月試験区

## 試験目的

早出し馬鈴薯の芽出し作業削減のための生分解効果確認試験

試験作物  
及び品種

馬鈴薯

試験資材  
及び数量(規格)

イモイモマルチ(95cm×400m) 黒 2本

## 慣行資材

黒マルチ

## 資材使用期間

4月上旬～8月中旬

## 試験区面積

50㎡

## 試験結果

## (1)作業性について(慣行品との比較)

通常のマルチと遜色なく展張できた。

## (2)作物の生育状況または、収穫への影響

早い(寒い)時期に芽が出たものに関しては、問題なく生長している。ただ、一週間程度の時差で後半に芽が出てきたものは、マルチを突き破る前に焼けているものもある。また、遅く植えた他の圃場では、後から萌芽した芽は手で開けた。

比較すると、通常マルチで手作業で開けた方が旺盛に生育している。

## (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：芽がマルチを必要な部分だけ突き破り、広すぎない穴を開けて出てくる。カマで一つずつ穴を開けていたが、作業が要らなくなるのは大変良い。

【問題点】：通常マルチと比較して、生分解である以上は保湿力が弱い。今年は特に前半の雨が少なかったため、試験区は現行区と比較して乾燥気味。遅い芽は焼けてしまうことがあった。

## (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

展張時や展張後については特に破れもなく、問題なく使用できた。

## (5)促成・抑制効果について

雑草については、暑さでマルチを破れず焼けるものが見られた。ただ、雑草も試験区マルチの突き破りは見られた。

## (6)保温効果について

生育前半、両区を比較すると現行区の方が生育が早く見えたことから、保温性は現行区の方があるように思われる。

## モニター感想

今年は天候が不安定で、春先に急激に高温になった日があったことなどから、芽がイモイモマルチを突き破れず、一部通常マルチと同じように手で穴をあける作業が発生したこともあった。また生育後半は試験区に限らず病気が発生してしまったこともあり、正確に比較できなかった。

省力化が非常に期待できる資材であるため、今後も引き続き試験していきたい。

## JA担当者の感想(生産資材課 赤田 氏)

広い面積で作物を栽培している人は多い。そのため、このイモイモマルチのような作業性削減につながる資材は今後更に求められてくると考えられる。

毎年の気候変動には悩まされるが、難しい時期に栽培しても付加価値をつけたいという生産者の努力に応えられるような資材を今後も期待したい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。